

―会長に就任して1年がたちました。

「茨城産業人クラブは、県内の製造業、金融機関、大手企業の工場、支社・支店など会員数は150を超えます。名誉会長は橋本昌茨城県知事で、茨城県商工労働部長や筑波大学、茨城大学などが参与として参加しています。講演会や意見交換会、工場見学などの活

動を通じて、会員相互の交流、経営強化などを促しています。産業人クラブを軸に、それぞれの立場で情報交換し、経営の質を高めようことが原点と考えており、この1年は応援してくださる方も多く非常にやり

やすかった」

―2年目の抱負は。

「茨城産業人クラブは昭和39年4月7日にいわき地区を含む『常磐工業人クラブ』としてスタートし、来年50周年を迎えます。今後は過去の遺産だけではない

新しい目標が必要です。明確な目標として3年以内に

会員数を200にするための活動をしていきたい。一

方、茨城県には茨城県経営者協会、商工会連合会や商工会議所連合会、中小企業

いくと思います」

―次世代への布石をどう考えていますか。

「2代目、3代目などの若手は、親が社長や会長のケースが多く、仕事で悩みを抱えても相談する相手がいません。このため孤立し

を作り、若手の組織をどう作っていくのか1年かけて検討していきたい」

「また後継者が娘さんというケースも散見されるようになってきました。日本企業はまだまだ男性中心で、中小企業はなおさらといえるでしょう。産業人クラブも男性が多く、若い女性も参加しにくい部分が大

若手の組織作り 異業種交流



高橋 日出男 氏

(協立製作所社長)

団体中央会など経済4団体があり、こうした団体と産業人クラブをどう差別化していくかが重要な課題です。産業人クラブの特徴の一つとして行政とのパイプの太さがあげられます。こうした人脈づくりを差別化ポイントとして、経済4団体プラス産業人クラブという立ち位置を確立できれば、会員の裾野も広がって

やすく、孤立は判断を狂わす元凶となりえます。悩みを共有しあえる知り合いを作るという意味で、若手を中心とした異業種交流は意味があると思います。しかし経営者協会にも50歳を定年とした青年経営研究会があるため、産業人クラブでの活動は差別化が重要となってきます。まずは核となる若手を集めて準備委員会

次世代の女性経営者向けに、何ができるのか考えていく必要があると思います。これからは理事会を積極的に開き、会員増強策や若手、女性経営者向けの方策をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。産業人クラブのさらなる活性化が会員企業の経営・事業に大きな刺激を与え、希望につながればと思っています」